

香港アジアパワー

8 月を迎えました。

沖縄は、毎日暑くて日中外へ出るのが辛いです。でも風が流れていて、気温は高くてもせいぜい 32 度ぐらいです。暑いといっても本土とは質が異なります。こんな日に 1 日ビーチにいと、本土の人は完全に火傷してしまいます。以前東京でのデザイン学校時代、9 月の休みを利用してクラスメイトの女友達 2 人が沖縄へ遊びに来て、慶良間諸島の渡嘉敷島へ 1 泊 2 日で海水浴に行きましたが、半日の海水浴でひとりがひどい火傷状態になり、夜通しで看病した思い出があります。こおり水をタオルで絞っては焼けた肌に当てがっていました。新学期が始まり顔面から爪先まで真っ赤になって登校したクラスメイトは、その後皮が剥けだし、学校が始まってもしばらくは異様な状態でした。沖縄の太陽は強烈です。皆さんもこちらにお越しの際は、くれぐれも焼き過ぎにご注意ください。



写真:Asian Powerlifting Federation インスタグラムより

さて、7 月の 22 日から 26 日まで香港でのアジアパワーへ審判として参加してきました。選手団は、20 日深夜に現地入りしたそうですが、空港送迎バスで間違ったホテルに案内され、団長不在で結局真夜中にタクシーに分散し予定のホテルへ到着するというハプニングに見舞われたそうです。ハプニングにめげず戦った選手の皆様、団長、審判として関わられた皆様、お疲れ様でした。

私は、空港で迎えてくれた女性役員とフィリピンから到着する 1 名を待って、3 人でタクシーに乗り会場へ向かいました。空港内のターミナルを移動して、タクシー乗り場に到着するとすでに迎えが来ていました。

運転手はTシャツにハーフパンツ、ゴム草履ばきで、すごいラフスタイル。

助手席に香港女性が座り、私は後部座席の助手席側に座りました。

何でも、ホテルにチェックインする前に会場の大会事務所でレジストレーションと宿泊費ほか支払いを先に済ませるらしい。

ちょうどウィークデイの夕方、高速道路はとどころすごい渋滞。タクシードライバーは、その風貌通り、運転もかなりラフ。急ハンドルで車線変更は序の口で、クラクションはバンバン鳴らし、車間距離のスペースに強引に突っ込んでいく、何とも恐ろしいドライバーでした。小一時間のドライブの後、街中に入ると渋滞はピークで、少しでもスペースを見つけるとクラクションを目一杯鳴らしながら、突っ込んでいくありさま。これが日本だったら、絶対大喧嘩になり車を含めボコボコになりそうな光景でした。香港タクシー恐るべし。

会場のクイーンエリザベススタジアムに到着後、大会事務局で支払いとレジストレーションを済ませ、入手したばかりのIDカードをぶら下げ早速試合会場のアリーナへ向かう。競技は、この時点で1時間半ほど進行が遅れているらしく、男子59kgベンチプレスの最初のセッションが始まる直前でした。アップ場へ行くと白石選手がアップを終えてスタンバイしているところでした。「ガンバレ！」のエールを送って、明日一番の女子63kgのTCのため、検量室やコスチュームチェック室などを含め一通り会場内をチェックして、明日からの仕事に備えうしろ髪を引かれる思いで早々に会場を後にしホテルへ向かいました。



写真:アップ場。コンクリート床に5mmのラバーだけで、デッドをガツン、ガツンとやっていた(汗)

今回の会場は、2008年のアジアベンチで訪れている。宿泊先チャートハウスホテルも7年ぶり。このホテル、インテリアなど重厚感があり昔は格調あるホテルだったが、現在はどうしようもないボロホテルで、冷蔵庫は冷えない、フェイスタオルやバスタオルには穴まであいていて、一泊2万円は詐欺。これでは東横インの方が快適だった。

出発前夜は、夜10時に最後のレッスンを終えて荷造りを開始し、翌朝7時20分の飛行機に間に合わせるため、結局2時間睡眠だった。これまで三十数年間の海外遠征で、今回は初めて

役員のみでの遠征。荷物の少なさにビックリする。普段の選手兼審判での遠征だと、競技関連ギア類、競技関連衣類、審判コスチューム、それに体重計に電熱器や食糧などを詰め込むと、スーツケースは直ぐに満杯。

今回の審判コスチュームは、夏場の遠征でワイシャツ2枚にスラックス、ネクタイ、革靴、それにジャパンユニフォームにTシャツなどで、スーツケースはガラガラ。出発直前に気づいて梱包無しで放り込んだワインボトルが香港にたどり着くまでに、ガラガラのスーツケースの中で暴れ過ぎて破裂しないか、それだけが心配だったが、無事だった。チェックイン後、日本から持参した特製お弁当とワインで簡単に遅い夕食を済ませ朝に備える。

翌朝、5時起床でシャワーしてこれも日本から持参したドリップコーヒーとペストリーで朝食後早々に会場へ向かう。

会場までゆっくり徒歩で10分足らずの距離。雨空の蒸し暑い香港の朝、6時45分に会場へ入り、7時からのコスチュームチェックに備える。コスチュームチェック室は、前日の最後のセッションのチェックのままで後片付けされてなく、切り落とされたニーラップのはぎれや飲み残しのペットボトルやら、見事に荒れ放題。まずは、室内の清掃から私の2日間4セッションの仕事がスタートした。



写真:スクワット。今大会のSQとBPのために、IPFがカザフから送り込んだ補助団。

この日は、朝一の女子63kgのテクニカルコントローラーと最後のセッションの男子93kg級の陪審員と初の試験官。それに急遽主審の台湾のハンが英語を話せないとのことで、検量を担当してもらえないかと、今回の役員選挙でアジアの技術委員長に就任したチャオから打診があり、断る理由がないので快諾した。検量室では、ハンに指示しながら何とか無難にこなした。結局、93kg級が終了したのも午前0時をとくにまわっていた。あれ以来、ハンは私のことを片言の日本語で“先生”と言い出して少し照れる。

翌朝は、ホテルで少しゆっくり朝食をとってから会場入り。3日間の大会最終日で、この日は第二セッションの105kg級のTCが入っていて、このセッションで私の今大会の仕事は全て終

了のはずだったが、105kg 級終了直後に IPF のテクニカルオフィサーのハニー・スミスから、最後のセッションの主審をやってくれないかとまた打診があり、これも断る理由がないので快諾し、男子 120kg と +120kg の主審を担当した。



写真:陪審員席にて。
左からソルター新 APF 会長、筆者、
ハニー IPF 技術委員長と
同僚のビッキーさん。

今大会、結局 4 セッションでお手伝いさせていただいたが、いろいろ勉強ができた。TC をやって気づいたことは、TC が一番の特等席。立ちっぱなしで疲れるが、あの位置からだとステージ上の全てが把握できる。陪審席の状況はもとより、3 審判の判定基準、スポッターやローダーの動きなど、全てが把握出来た。その中で今回特に感じたことは、スクワットのしゃがみの判定基準。同じレフリーでも、判定の基準が安定せずころころ変わっていて、選手が気の毒だった。プレートのミスロードも、私が担当した全てのセッションのデッドリフトであった。主審をして気づいたことは、緊張もするがそれ以上に楽しかったこと。主審は大会のナビゲーター。判定を含め主審がテキパキと仕事をすると、競技がテンポよく進行していく。私は、陪審員席に座っているよりもより選手に近い位置にいる TC や審判の仕事が好きだということを今回改めて認識した。



写真左:TC 席は大会の全てが見えて特等席

写真右:フィリピンのレスリーさんと。

彼女とは、3 セッションで一緒に仕事をした



それから、国際レフリーで英語ができない方のために、紫のパッジとネクタイが出来たようだ。これらのレフリーは、リージョナル大会では、陪審員を務めることが出来るが、世界大会ではできないという規定があるようだ。同時に英語ができないレフリーで、現在1級の赤パッジとネクタイ保持の方を紫に格下げすることはないとのことだった。

香港からの帰国は成田経由。(ちなみに、行きは関空経由だった)。成田空港では、野菜の直売所で足が止まり、見たこともなかった白ナスなど衝動買い。沖縄へ戻って料理したら、鮮度の違いと味の違いにビックリした。



香港から帰国して2週間近くが経過し、日々の生活に追われっぱなしで、気がつくと8月も1/3近くが過ぎてしまった。そんな中で、昨日終了した世界水泳男子400メートル個人メドレーの瀬戸大也選手のアグレッシブな闘い方に凄く感動した。大会期間中調子の上がらなかった彼は、最後にディフェンディングチャンピオンとして出場したこの種目で、大方の予想を覆して前半から積極果敢に攻めた。誰もが後半失速することを心配したが、彼は最後まで失速することなく泳ぎ通し、自己ベストで日本初の世界水泳連覇という偉業を達成した。調子が悪くても、ポジティブに対処していくという考え方は、一流を極めるうえでは大切な考え方だと思うし、それができた背景にはそれなりの豊富な練習量があったものと推測された。我々の競技で、世界大会に出場して“三振しなくて良かった”などと、何とも消極的なコメントを小耳にするたびに思うことがある。

何のための世界大会出場なのかと。そこに何を求めてさまざまなことを犠牲にしてやってきたのかと。

世界大会は闘い、世界中から集まる強者を相手にして自ら攻めずして、決して頂点は極められない。攻めた結果に三振があったとしても、それは必ず次回に繋がっていくもの。三振を恐れて攻めないのでは、世界で頂点を極めることは不可能に近いことだ。その意味で、今回の瀬戸大也選手の闘いは大いに共感させられ、素晴らしかった。

さて、我々のパワーリフティング競技では、今月末チェコ共和国で世界サブジュニア&ジュニアパワーが開催され、今年も日本から多くの選手が出場する。POWERSPORTからも、サブジュニアの部男子74kg級に矢木龍馬が出場する。今大会、彼にとっては昨年10月に競技を開始して以来3回目の試合になる。彼には、下記のような敢えて高い目標を設定して、先月から週4回のトレーニングを行ってきている。

IPF

Team Japan-2015
IPF Men's & Women's
15th Sub-Junior and 33rd Junior
World Powerlifting Championships

31st August - 6th September 2015, Prague, Czech Republic
 Head: Shigeo Mori, Sam Head: Tsuruyoshi Fajmo
 Referee: Hiro Isagawa, Koichi Nakatani, Interpreter: Miki Toyao

Sub-Junior Women:	93kg - Kosuke Takashima	53kg - Kazuma Arai
-47kg - Mayu Uemura	105kg - Yutaro Kashiwagi	59kg - Yusuke Satake
-52kg - Ren Akazawa	Junior Women:	66kg - Go Suzuki
-57kg - Nobuyo Kobayashi	43kg - Koze Memoto	66kg - Yosuke Kluchi
-57kg - Aya Kureasa	47kg - Kotomi Hayakawa	74kg - Yoshiki Suzuki
-63kg - Mayu Yoshida	47kg - Mitsuki Iritune	74kg - Takahiro Ono
-72kg - Asami Shinoda	52kg - Ayasa Minami	53kg - Jun Furukawa
-72kg - Michiru Kudo	52kg - Ruri Fujinami	105kg - Yosuke Horiguchi
Sub-Junior Men:	57kg - Yuka Satake	105kg - Kyohel Yokoyama
-53kg - Kosuke Takano	63kg - Maruru Terahara	Reserve:
-59kg - Motoki Murata	72kg - Emi Nakano	-83kg - Hiroki Chiba
-66kg - Yuki Nakayama	Junior Men:	-105kg - Seiken Sano
-74kg - Ryoma Yagi		-120kg - Kotaro Namba
-74kg - Hiroshi Ishikawa		Support Staff:
-83kg - Tetsuya Horiguchi		Eriko Uemura

Power of Japan
We strive forward to the new day with our dreams and hopes.

POWERSPORT
 DENMARK
ER EQUIPMENT
 DENMARK
www.er-equipment.dk



写真: 世界ジュニア・サブジュニア応援バックプリント(左)とスクワット練習中の龍馬(右)

世界サブジュニア目標:

- (1) トータル 600kg 挙げて 6 位入賞
- (2) ベンチプレスで 160kg を挙げて、種目別メダル獲得
- (3) 結果として、(1)、(2)の日本記録を樹立する

そのために、現在猛練習中。彼の目標達成をサポートするために、私もセコンドと審判として急遽参加させていただくことにした。龍馬には“三振”など恐れず、積極的な試技をして暴れて欲しいと思うと同時に、選手団の皆さまにも可能な限りのフォローをさせていただきたいと考えている。

8月後半からは、もう一つのビッグイベントの世界陸上控えている。競技は違えど一流のアスリートを視ることで、いろいろフィードバックできそうなアイデアを得られることもあり、今から楽しみにしている。

伊差川 浩之

Legend of Powerlifting